

小松島市の民家

民家班 (日本建築学会四国支部徳島支所)

松尾 晶子^{1*} 植田 悟美² 尾形 碧³ 金澤 智枝⁴ 喜多 順三⁵
高田 哲生⁶ 林 茂樹¹ 福田 順人⁷ 元木幾美子⁸

要旨：1968年に小松島市で阿波学会総合学術調査が行われたが、民家を対象とした調査は行われておらず、その実態は明らかにされていない。今回は小松島市全域を対象に、茅葺き民家、近代和風建築に該当する民家の調査を行った。小松島市全域で類似した意匠的特徴を持つ民家が多く確認され、明治後期から昭和初期にかけて流行したものと考えられる。

キーワード：茅葺き民家、近代和風建築、比翼入母屋破風、置き屋根、圍障

1. はじめに

徳島県の東側に位置する小松島市は江戸・明治期にかけて在郷町として発達し、明治32年に小松島港の築港が開始されて以来、小松島港は四国でも有数の主要港湾であった。新田開発を進めた多田家や藍商を営んだ西野家など、豪農や豪商が生まれ、小松島市の歴史に名を残すほどの繁栄を極めていた。

1968年に小松島市で阿波学会総合学術調査が行われたが、民家を対象とした調査は行われておらず、その実態は明らかにされていない。今回は小松島市全域を対象に、茅葺き民家、近代和風建築に該当する民家の調査を行った。

2. 茅葺き民家

これまで小松島市の茅葺き民家については、2006年に阿波のまちなみ研究会が分布数や間取りなど特徴を調査し、『小松島市の茅葺き民家実態調査』と



図1 小松島市の茅葺き民家実態調査 (2006年)

してまとめている。(図1)

2006年に行った調査から16年の歳月が経過していることから、現在の利用状況や残存状況を把握するため、『小松島市の茅葺き民家実態調査』に掲載された茅葺き民家一覧(図2)をもとに再調査を行った。図3に示す調査票を用いて、外観上の特徴のほ

番号	所在地	上屋	下屋	間口奥行	勝手	玄関	方位	居住	その他
7/23-1	立江町高田	トタン	四方	6*	右	なし	南	○	
7/23-2	立江町高田	トタン	四方	6*	右	なし	南	○	
7/23-3	田野町勢合	オブタ	5.5*		右	なし	南	○	
7/23-4	坂野町島の内	トタン	四方	6.5*	右	なし	南	△	
7/23-5	坂野町大保	トタン	オブタ	6*	右	なし	南東	○	
7/24-1	大林町北浦	トタン	オブタ	5.5*	右	なし	南	×	
7/27-1	立江町濱水	トタン	オブタ	5.5*	右	なし	南	○	
7/27-2	立江町船寺	トタン	四方	6.5*	右	なし	南	×	
7/27-3	橋浦町瀬	トタン	四方	6*	右	なし	東	○	
7/27-4	橋浦町中田	トタン	四方	6.5*	右	なし	南	○	
7/27-5	田野町奥井	トタン	オブタ	6*	右	なし	西	○	
7/27-6	田野町島宿本	トタン	?		?	?	南	×	
8/5-1	和田島町勢以元	トタン	オブタ	6*	右	有	南	△	改造あり
8/5-2	田野町恩山寺谷	トタン	四方	6*	右	なし	南	○	
8/5-3	芝生町西浦	トタン	オブタ	5*	右	なし	南	○	
8/5-4	芝生町西浦	トタン	四方	7*	右	有	南	○	「阿波の民家」調査対象
8/9-1	江田町謙前	トタン	オブタ	4.5*4	左	なし	南東	○	
8/9-2	小松島町元柳井	トタン	オブタ	3.5*	左	なし	東	○	
8/9-3	小松島町元柳井	トタン	オブタ	6*	右	なし	南	△	
8/9-4	神田瀬町	トタン	四方	6*	右	なし	南	○	
8/16-1	田浦町広貞	スレート	オブタ	3*3.75	右	なし	南	○	
8/16-10	新居見町高内	トタン	オブタ		右	なし	西	△	納屋
8/16-11	新居見町高内	トタン	四方	6*	右	なし	南	○	
8/16-12	新居見町山路	スレート	四方	4.5*	右	なし	南	○	
8/16-13	新居見町柳ノ内	トタン	四方	5.5*	右	なし	南	○	
8/16-14	田浦町神子の内	トタン	四方	6*	右	なし	南	○	
8/16-15	田浦町西原	トタン	オブタ		左	なし	南	○	
8/16-16	田浦町中西	トタン	オブタ	4.5*	右	なし	南	△	
8/16-2	田浦町北原	トタン	オブタ	4.5*	右	なし	南	○	
8/16-3	田浦町今里	トタン	四方	6.5*	右	なし	南	×	
8/16-4	田浦町矢三	トタン	オブタ		?	?	西	△	納屋・別棟の主屋あり
8/16-5	田浦町矢三	トタン	四方	4.5*	右	なし	南	○	
8/16-6	田浦町本村	トタン	四方	5*	右	有	南	○	
8/16-7	田浦町本村	トタン	オブタ	4.5*	右	なし	南	○	
8/16-8	田浦町北原	トタン	四方	4.5*4	右	なし	南	○	
8/16-9	田浦町子安	トタン	四方		右	なし	南東	○	
8/17-1	新居見町柳ノ内	トタン	四方	5.5*	右	なし	南	○	
8/17-2	新居見町高内	トタン	オブタ	4.5*3.5	右	なし	南	○	
8/17-3	新居見町東山下	トタン	オブタ	3.75*	左	なし	南	×	農作業小屋
8/17-4	中島町前田	トタン	オブタ		右	なし	南	×	
8/17-5	前原町川原	トタン	四方		右	なし	南	×	
8/17-6	前原町宮	トタン	オブタ		右	なし	南	○	

図2 茅葺き民家一覧 (小松島市の茅葺き民家実態調査より)

1 (株)林建築事務所 2 自営 3 徳島大学理工学部理工学科社会基盤デザインコース 4 環境デザインワークス

5 空間計画研究所 6 (有)佐藤建築企画設計 7 くすの木建築研究所 8 (株)エスプレイス

* 〒770-8063 徳島市南二軒屋町2丁目3-3-301 (株)林建築事務所

調査票							
No.	調査者	調査日	令和 年 月 日				
住宅地番号							
所在地							
所有者							
利用形態	居住・空き家・不明						
屋根仕上	茅・トタン（青・赤・銀・黒・他：）・他（）						
屋根形状	寄棟・切妻・他（）	下屋形式	四方・他（）				
下屋架構	天秤梁（有・無）						
勝手	右・左・他（）	寸法	間口 間 × 奥行 間				
玄関構え	有・無・他（）	間取					
外壁	大壁・真壁・当初の仕上（）						
外部建具	障子・木製ガラス戸・アルミサッシ・他（）						
建築時期	（棟札・間取）主屋方位						
敷地形状	平坦地・傾斜地（）						
屋敷構え	平野型・山村型・その他	便所位置	前・妻側・他（）				
付属建物	厩・納屋・蔵・離れ・その他（）						
備考							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td colspan="4" style="height: 150px;"></td></tr> </table>							
大黒柱	有（×）・無・不明	内法寸法	mm				
才モテ規模	間口	間 × 奥行	間				
五尺間	・梁間	・桁行	軒裏 現し・軒張・出桁				

図3 茅葺き民家の調査票

か、利用状況の確認も行った。

茅葺き民家は、2006年当時、42棟が確認されていたが、現在は24棟まで減少している。利用状況を見ると、居住が12棟、空き家が12棟となっている。（表1）居住者のほとんどが高齢者の単独世帯であり、いずれ消失することが懸念される。

調査地区	2006年	2022年		
	当時棟数	消失	現存棟数	
			居住	空き家
小松島市全域	42	18	12	12

表1 茅葺き民家の現存数

空き家が半数を占めていることから、図面採取や構法の確認などの詳細調査は非常に困難であった。残存する茅葺き民家については、可能な限り外観調査を行い、その特徴を表2にまとめた。屋根形状は

寄棟、トタンで覆われており、下屋形式は半数以上が四方下屋である。

調査を行った民家の利用形態として、図4のように住居として利用実態があるもの、図5のように適切な維持管理を行っている空き家や、図6のように管理が行き届かず崩壊している空き家も確認された。



図4 調査No.9 茅葺き民家



図5 調査No.10 茅葺き民家



図6 調査No.11 茅葺き民家

No.	所在地	建築時期	屋敷構え	間取り	規模		玄関構え	勝手	屋根形状	屋根仕上	下屋形式	下屋仕上	外壁		外部建具	主屋方位	利用形態	備考
					間口	奥行							形式	仕上				
1	立江町高田		平野				無	右	寄棟	トタン	四方	本瓦	真壁	土壁現し	アルミ	南	空家	
2	立江町高田	大正8年	平野	6	4.5		無	右	寄棟	トタン	四方	本瓦	真壁	トタン	アルミ	南	空家	
3	田野町勢合	明治中期	平野	6			無	右	寄棟	トタン	三方	本瓦	大壁	下見板	木製ガラス戸	南	居住	
8	立江町鍋寺	明治後期	平野	7	5		無	右	寄棟	トタン	四方	本瓦	大壁	下見板		南	空家	
9	櫛渕町湊	明治初期	平野	5.5	3.5		無	右	寄棟	トタン	四方	本瓦	真壁	トタン	アルミ	東	居住	
10	櫛渕町中田	明治後期	平野	6.5	5		無	右	寄棟	トタン	四方	桟瓦	大壁	下見板		南	空家	
11	田野町奥角		平野	5.5			無	右	寄棟	トタン	三方	本瓦	大壁	下見板	木製ガラス戸	西	空家	
14	田野町恩山寺谷	明治中期	平野	5.5			無	右	寄棟	トタン	四方	本瓦	真壁	トタン	木製ガラス戸	南	居住	
18	小松島町元根井		平野	6.5	4		無	右	寄棟	トタン	三方	桟瓦	真壁	トタン	アルミ	東	空家	
19	小松島町元根井		平野	4.5	4		無	左	寄棟	トタン	三方	本瓦	大壁	下見板	アルミ	東	居住	
20	神田瀬町		平野	8	5		無	右	寄棟	トタン						南	居住	
21	田浦町広貞		平野	3			無	右	寄棟	トタン	一方	金属			アルミ	南	居住	
23	新居見町高内	江戸後期	平野	6.5	4		無	右	寄棟	トタン	四方	本瓦	真壁		アルミ	南	居住	
27	田浦町西原		平野	4.5	3.5		無	左	寄棟	トタン	三方	本瓦	真壁	トタン	木製ガラス戸	南	空家	
29	田浦町北原		平野					寄棟	トタン		本瓦						空家	崩落危険のため調査不可
30	田浦町今里		平野	7			無	右	寄棟	トタン	四方	本瓦	大壁	下見板	木製・アルミ	南	空家	
34	田浦町本村		平野	4.5			無	右	寄棟	トタン	二方	桟瓦	大壁	下見板	アルミ	南	居住	
35	田浦町北原		平野	5.5	4		無	右	寄棟	トタン	四方	本瓦			アルミ	南	空家	
36	田浦町岩金	大正	平野	6	5	有	左	寄棟	トタン	四方	桟瓦	真壁			アルミ	南	居住	
37	新居見町柳内		平野	5.5			無	右	寄棟	トタン	四方	本瓦	真壁	トタン	アルミ	東	居住	
38	新居見町高内		平野	4.5			無	右	寄棟	トタン	二方	本瓦	真壁	トタン	アルミ	西	居住	
39	新居見町東山下	明治	平野	3.5			無	左	寄棟	トタン	一方	本瓦	大壁	下見板		東	空家	
40	中郷町前田		平野	6.5	4		無	右	寄棟	トタン	三方	本瓦	真壁	トタン	木製ガラス戸	西	居住	
42	前原町宮																空家	敷地へのアクセスが不可

表2 茅葺き民家一覧（現存する民家のみ）



図7 茅葺き民家分布図（過去調査で分布が確認されたものを含む）

3. 近代和風建築

2013年に徳島県教育委員会が『徳島県の近代和風建築—徳島県近代和風建築調査報告書』を編集・発行している。(図8) 概ね幕末から昭和20年代に建築された建築物のうち、伝統的様式や技法で建てられた木造建築物と、擬洋風と呼ばれる洋風の意匠を持つ建造物のことを「近代和風建築」と定義され、調査が行われた。



図8 徳島県の近代和風建築—徳島県近代和風建築調査報告書—(2013年)

上記報告書に掲載された小松島市の一次調査対象物件一覧(図9)をもとに、近代和風建築に該当する民家の現状について図10に示す調査票を用いて調査を行った。可能なものについては聞き取り等の図面採取や所有者への聞き取りなどの詳細調査を行った。

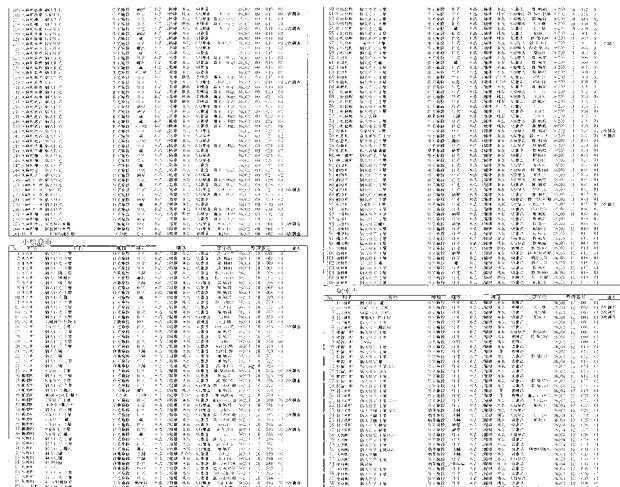


図9 小松島市的一次調査対象物件一覧(徳島県の近代和風建築—徳島県近代和風建築調査報告書—より)

調査票			
No.	調査者	調査日	令和 年 月 日
住宅地図番号			
所在地			
所有者			
利用形態			
敷地面積			
前面道路			
主な方位			
建築年代			
構造			
用途			
屋敷構造			
玄関構造			
勝手			
屋根形状			
屋根仕上			
下屋架構			
下屋仕上			
下屋形式			
軒裏			
外壁形式			
外壁仕上			
建具種類			
出格子			
ミセづくり			
その他特徴			
基礎形式			
境界			
付属建物			
備考			

図10 近代和風建築に該当する民家の調査票

2013年に調査が行われた当時は、106棟が存在していたが、建物解体や建替などにより、現在は65棟まで減少している。利用状況を見ると、居住が49棟、空き家が16棟となっている。(表3, 5)

調査地区	2013年	2022年	
	当時棟数	消失	現存棟数
		居住	空き家
小松島市全域	106	41	49 16

表3 近代和風建築の調査対象となった民家の現存数

今回実施した調査において新たに15棟の該当する建築物が確認された。その利用状況は居住が11棟、空き家が4棟となっている。(表4, 6)

調査地区	2022年		
	追加棟数	居住	空き家
		居住	空き家
小松島市全域	11 4		

表4 新たに追加された棟数

No.	所在地	用途	建築時期	工法	階層	規格(間)		玄関構え	勝手	屋根仕上	屋根形状	下屋架構	下屋仕上	下屋形式	比翼入母屋破風	軒裏	外壁		外部建具	その他特徴	屋敷構え	面積	主屋方位	利用形態	備考			
						間口	奥行										形式	仕上										
1	赤石町	住宅	昭和元年	伝統	二階			無	右	本瓦	切妻					化粧野地	大壁	金属板	アルミ	平野	CB塗	西	居住					
2	赤石町	住宅	戦前	伝統	二階			無	中	本瓦	切妻					化粧野地	大壁	金属板	アルミ	平野	CB塗	西	居住					
3	赤石町	住宅	昭和12	伝統	二階			無	中	棟瓦	切妻					化粧野地	大壁	漆喰、下見板 ほか	木製ガラス戸	平野		西	空家					
4	赤石町	住宅	大正14	伝統	つし二階			無	中	棟瓦	切妻					そぎ現し	大壁	金属板	アルミ	生け垣	南	居住						
5	立江町	住宅	戦前	伝統	二階	6	5	無	右	本瓦	切妻					化粧野地	大壁	漆喰、金属板	アルミ	平野	CB塗	南	空家					
6	立江町	住宅	戦前	伝統	つし二階	5.5	4	無	右	本瓦	切妻		本瓦	四方	有	化粧野地	大壁	漆喰、下見板 ほか	木製ガラス戸 アルミ	平野	横垣 CB塗	南	居住					
7	立江町	住宅	昭和3	伝統	つし二階	6	5	無	右	本瓦	切妻	天秤梁	本瓦	四方	有	化粧野地	大壁	漆喰、下見板 ほか	木製ガラス戸 アルミ	小庭	平野	横垣	南	居住				
8	立江町	住宅	昭和初期	伝統	二階	6	5	無	右	本瓦	切妻	天秤梁	本瓦	四方	有	化粧野地	大壁	下見板	アルミ	小庭	平野	横垣	南	居住				
9	立江町	店舗	昭和初期	伝統	二階	4		無		本瓦	切妻	天秤梁	本瓦	一方		化粧野地	大壁	漆喰	木製ガラス戸 幕板、持送り	平野		東	居住					
10	立江町	店舗	戦前	伝統		2	3	無		本瓦	切妻	本瓦	一方			化粧野地	真壁	漆喰	木製ガラス戸	袖壁	平野		東	空家				
11	立江町	住宅	戦前		二階					本瓦	切妻												東	居住				
12	立江町	店舗	明治中期	伝統	二階				左	棟瓦	切妻	天秤梁	本瓦	二方		化粧野地	大壁	下見板	木製ガラス戸 アルミ	幕板、手摺	町塀	CB塗	北	居住				
13	立江町	住宅	明治後期	伝統	二階	5		無	右	本瓦	切妻	差肘木	本瓦	三方		化粧野地	大壁	下見板	木製ガラス戸 アルミ	小庭	平野	CB塗	南	居住				
14	櫛渕町	住宅	明治7	伝統	中二階	6	4	無	右	本瓦	切妻	下屋折	本瓦	四方		化粧野地	大壁	漆喰、下見版	アルミ	平野	横垣	南	空家					
15	櫛渕町	住宅	明治中期	伝統	中二階			無	右	本瓦	切妻	本瓦	四方			化粧野地	大壁	木製ガラス戸	アルミ	平野		南	居住					
16	櫛渕町	住宅	昭和初期	伝統	二階	7.5		有	右	本瓦	入母屋					化粧野地	大壁	漆喰、下見版	アルミ	平野	石垣	南	居住					
17	櫛渕町	住宅	戦前	伝統	平屋			無		棟瓦	切妻 入母屋					二方		そぎ現し	大壁	漆喰、下見版	木製ガラス戸	平野		北	空家			
18	櫛渕町	その他	終練前後	在来	平屋					その他	切妻					化粧野地	大壁	下見板	木製ガラス戸	平野		北	空家					
19	櫛渕町	住宅	嘉永4	伝統	つし二階			無	右	本瓦	切妻		本瓦	四方		化粧野地	大壁	漆喰、下見版	アルミ	平野	石垣	南	居住					
20	櫛渕町	住宅	昭和10	伝統	中二階	5	4	無	左	本瓦	切妻	天秤梁 下屋折	本瓦	四方		化粧野地	大壁	漆喰、下見版	木製ガラス戸、 アルミ	平野			南	空家				
21	櫛渕町	住宅	明治中期	伝統	二階	7.5	4.5	無	左	本瓦	切妻	下屋折	本瓦	四方	有	化粧野地	真壁	漆喰	アルミ	小庭	平野	生け垣 石垣	南	居住				
22	櫛渕町	蔵	明治中期	伝統	二階	4	2	中	本瓦	切妻						大壁	漆喰、下見版			持送り	平野	石垣	居住	外壁漆に洗い出し				
23	坂野町	住宅	昭和5	伝統	二階			無	右	本瓦	入母屋					化粧野地	大壁	下見板	アルミ			生け垣 CB塗	東	居住				
24	坂野町	住宅	戦前	伝統	つし二階			無	中	本瓦	入母屋					化粧野地	大壁	下見板	アルミ	コチ絵	平野	CB塗	東	居住				
25	坂野町	店舗	昭和20		二階			無	右	本瓦	切妻					化粧野地	大壁	下見板	木製ガラス戸 アルミ			横垣	南	居住				
26	坂野町	料亭	昭和初期	伝統	二階			無	中	本瓦	切妻					化粧野地	大壁	下見板	木製ガラス戸	小庭	平野	CB塗	北	空家				
27	坂野町	住宅	昭和10	伝統	二階			無	中	棟瓦	切妻					化粧野地	大壁	下見板	アルミ	小庭 えぶり板	平野		北	空家				
28	坂野町	住宅	昭和初期	伝統	つし二階					棟瓦	切妻	天秤梁				そぎ現し	真壁	漆喰	木製ガラス戸	小庭	平野	CB塗	北	居住				
29	坂野町	郵便局	大正後期	伝統	二階			無	中	棟瓦	入母屋					板張り	大壁	下見板	木製ガラス戸 アルミ	平野	CB塗	北	居住	縦洋風				
30	和田島町	住宅	戦前	伝統	つし二階			無	左	本瓦	切妻		本瓦			化粧野地	大壁	金属板	アルミ	平野	CB塗	南	居住					
31	和田島町	住宅	大正	伝統	二階			無	中	棟瓦	切妻					ケイカル	大壁	漆喰	アルミ	小庭	平野	横垣	南	居住				
32	中田町	住宅	明治後期	伝統	二階	4.5	4	無		棟瓦	切妻	棟瓦	一方			化粧野地	大壁	金属板	アルミ	平野	CB塗	南	居住					
33	小松島町	住宅	昭和10	伝統	平屋	6.5	6	有		本瓦	入母屋	棟瓦	四方			化粧野地	大壁	漆喰、下見版	アルミ	平野	その他の 居住							
34	中田町	住宅	戦前	伝統	二階	5	9	有	左	本瓦	入母屋	本瓦	四方			化粧野地	大壁	下見板	アルミ	平野	その他の 居住							
35	中田町	蔵	戦前	伝統	二階			無		本瓦	切妻					化粧野地	大壁	アルミ	アルミ	平野	東	居住						
36	中田町	住宅	戦前	伝統	二階	4	有			本瓦	入母屋	本瓦	四方			化粧野地	大壁	下見板	アルミ	平野	石垣	居住						
37	中田町	住宅	戦前	伝統	平屋	5	5	有		棟瓦	入母屋	棟瓦	四方			化粧野地	大壁	漆喰、下見版	アルミ	平野	石垣	南	居住					
38	中田町	別荘	昭和14	在来	平屋	3	4	無	右	その他	切妻					大壁	下見板	アルミ	平野	南	居住							
39	中郷町	住宅	戦前	伝統	二階	4	4	無	左	本瓦	切妻		棟瓦	一方		化粧野地	大壁	その他	アルミ	出格子	平野		北	居住				
40	小松島町	住宅	大正13	二階	5	3	無	左	棟瓦	入母屋	棟瓦					大壁	金属板	アルミ	平野		南	居住						
41	小松島町	住宅	大正8	在来	二階			無	右	棟瓦	入母屋	棟瓦				化粧野地	大壁	金属板	アルミ	平野		北	居住					
42	小松島町	住宅	戦前		二階					棟瓦	切妻					大壁	金属板	アルミ	平野									
43	小松島町	住宅	大正11	二階	3	3.5	無	左	その他	切妻						大壁	金属板	アルミ	平野		北	空家						
44	小松島町	住宅	大正7	二階	3.5	4	無	左	その他	切妻						大壁	下見板	アルミ	平野		北	空家						
45	小松島町	住宅	戦前	在来	二階	3	3.5	無	右	本瓦	入母屋	棟瓦				化粧野地	大壁	その他	アルミ	平野		西	居住					
46	小松島町	住宅	戦前		二階	3.5	3	無	右	棟瓦	切妻	棟瓦				大壁	金属板	アルミ	平野		東	空家						
47	松島町	住宅	戦前							本瓦	入母屋									平野			居住					
48	松島町	住宅	大正末							本瓦	入母屋									平野			居住					
49	松島町	住宅	戦前		平屋	2.5	3.5			本瓦	入母屋						大壁	下見板	アルミ	平野		CB塗	東	居住				
50	松島町	住宅	戦前		平屋	5	3.5			本瓦	切妻	棟瓦	四方			化粧野地	真壁	漆喰	アルミ	えぶり板	平野	CB塗	居住					
51	松島町	倉庫	戦前	つし二階	5.5	3				棟瓦	切妻					真壁	漆喰		小庭、出柱、出格子	平野		西	空家					
52	神田瀬町	住宅	昭和11			6	3.5	無	右	本瓦	切妻	本瓦				化粧野地	大壁	漆喰	アルミ	小庭	平野	横垣	南	居住				
53	前原町	住宅	昭和6	在来	二階					本瓦	入母屋									平野			南	空家				
54	前原町	住宅	戦前	伝統	二階	7	5	有		本瓦	切妻					有	化粧野地	大壁	下見板	アルミ	小庭	平野		南	空家			
55	新井見町	住宅	昭和初期	伝統	二階	6.5	4.5	無	右	本瓦	切妻	本瓦	三方	有		化粧野地	真壁	漆喰	アルミ	小庭	平野	横垣	南	居住				
56	新井見町	住宅	明治後期	伝統	二階	7	6	有	右	本瓦	入母屋		本瓦	四方		化粧野地	真壁	漆喰	アルミ	肘木	平野	石垣	南	居住				
57	田浦町	住宅	昭和初期	伝統	二階			無	右	本瓦	切妻	天秤梁	本瓦	四方	有	化粧野地	大壁	漆喰、下見版	アルミ	小庭、出柱	平野	石垣	南	居住		</td		

No.	所在地	用途	建築時期	工法	階層	規格(簡)		勝手	屋根 材	屋根形 状	下屋架 構	下屋仕 上	下屋 形式	比翼入 母屋破風	軒義	外壁		外部建 具	その他特 徴	屋敷 構え	囲 院	主屋 方位	利 用 形 態	備 考	
						間口	奥行									形式	仕上								
66	江田町	住宅	戦後	在来	平屋				桟瓦	入母屋						化粧野地	大壁	下見板	アルミ		平野	南	居住		
67	江田町	住宅	戦後	伝統	二階			無	右	本瓦	切妻		本瓦	四方	有	化粧野地	大壁	金属板	アルミ	小庇	平野	南	居住		
68	中郷町	店舗																						居住	
69	中田町	住宅																						居住	
70	中田町	住宅	大正	伝統	二階	6	4.5	無	右	本瓦	切妻		本瓦	四方	有	化粧野地	大壁	下見板	アルミ		平野	CB塗	南	居住	
71	塩川町	住宅	大正	RC	二階			有	中		陸屋根							タイル	アルミ		平野		北	居住	
72	田浦町	住宅	昭和8	伝統	二階	6	4.5	無	右	本瓦	切妻	天秤梁	本瓦	四方	有	化粧野地	大壁	下見板	木製ガラス戸	小庇	平野	横垣	南	居住	
73	金磯町	住宅	戦前		二階	6	4	無	右	本瓦	入母屋		本瓦	四方			大壁	金属板	アルミ		平野	CB塗	南	居住	
74	金磯町	住宅																						居住	
75	赤石町	住宅		伝統	二階			無	中	本瓦	切妻					化粧野地	大壁	漆喰、下見板	木製ガラス戸		平野		西	空家	
76	赤石町	住宅	明治	伝統	二階			無	右	本瓦	切妻	天秤梁	本瓦	一方		化粧野地	大壁	金属板	木製ガラス戸	小庇、出桁 えぐり出板	平野		南	空家	
77	赤石町	住宅		伝統	二階			無	右	本瓦	切妻				有	化粧野地	大壁	金属板	木製ガラス戸	小庇	平野		南	空家	
78	赤石町	住宅		伝統	二階			無	中		寄棟					化粧野地	大壁	漆喰、下見板	木製ガラス戸	小庇、えぐり出板	平野	CB塗	南	空家	
79	赤石町	住宅		伝統	二階			無	右	桟瓦	切妻					化粧野地	大壁	金属板	アルミ		平野		西	居住	
80	立江	住宅	昭和初期	伝統	二階	6.5	5	無	右	本瓦	入母屋	繋ぎ梁	本瓦	四方	有	化粧野地	大壁	漆喰、下見板	木製ガラス戸	小庇、持送り	平野	横垣	南	居住	

表6 近代和風建築に該当する民家一覧（新たに対象として追加された民家）



図11 近代和風建築の調査対象民家分布図（現存民家のみ）

4. 近代和風建築物の意匠的特徴

今回の調査により、近代和風建築物に該当する民家の意匠的特徴を確認することができた。

1) 下屋出隅の納り

下屋出隅の納りは、下屋の流れ方向に応じて外壁に沿わせ納める形態が一般的であるが、城廓建築で用いられている「比翼入母屋破風」のような形態(図12, 13)をもつ建築物が多くみられた。今回の調査では、田浦町で3棟、立江町で5棟、櫛渕町で2棟、江田町・前原町・新居見町・中田町・田浦町・赤石町・坂野町で各1棟の合計17棟を確認した。南北方向と東西方向で軒の出が異なる下屋をとおりよく納めるための工夫で、雨仕舞と意匠を考慮したものと思われる。

小松島市に隣接する、徳島市、勝浦町、阿南市羽ノ浦町・那賀川町にある近代和風建築物に該当する



図12 比翼入母屋破風の形式（妻側全体）



図13 比翼入母屋破風の形式（詳細）

民家でもこの形式により納めているのを確認している。ただし片側のみ用いられた形式が多く、比翼の形式は少ない。地域固有の形式ではなく、隣接地と比較して多くみられることから、ある時期に地域で流行したものと思われる。

2) 蔵の屋根仕舞方法

蔵の屋根仕舞方法として、屋根を葺いたのち軒を漆喰で塗り固めた形式(図14)と、外壁と屋根面を漆喰で塗り固めた上に屋根を載せた「置き屋根（二重屋根）」という形式(図15)がある。外壁面の耐火性能は同様であるが、図14の形式は火災が屋根に延焼した際、瓦が崩落すると内部へ炎が燃え広がるのに対して、図15の形式は瓦が崩落しても内部へ炎が進入しないため、耐火性能が非常に高い。

今回の調査において、立江町、櫛渕町では置き屋根形式の土蔵を多く確認した。



図14 軒を漆喰で塗り固めた形式

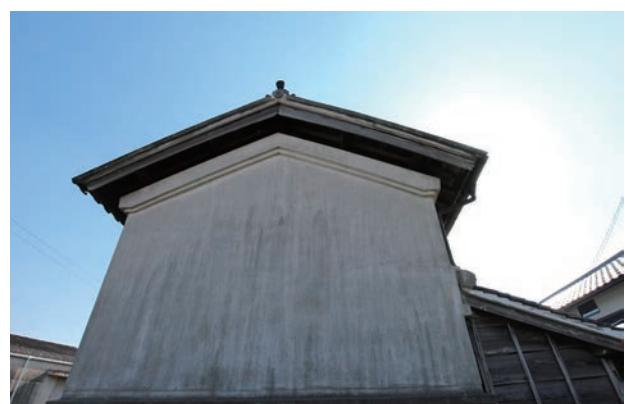


図15 置き屋根の形式

5. 囲障

屋敷構えの構成要素のうち、道路や隣地との境界に設けられる囲障（柵や堀、塀のこと）について調査を行った。

1) 平野部の囲障

平野に建つ民家が多い立江町では、農家型の屋敷構えとして、比較的広い敷地に主屋を中心に蔵や離れなどを配置し、敷地周囲を柵の生け垣で囲われたものが多くみられた。（図16）一部、石積みの上に柵の生け垣で囲われたものが確認された。（図17）周辺住民への聞き取りにより、立江町は柵の生け垣が多く、石積みは少ないことを確認した。



図16 立江町にある柵の生け垣



図17 立江町にある石積みの囲障

2) 山村部の囲障

傾斜地に建つ民家が多い櫛渕町では、山村部の屋敷構えとして、概ね南向きの傾斜地に主屋を南面若しくは谷に向けた配置となっており、アプローチ正面は石積みと門で構成されているものが多くみられ

た。（図18）石積みの上に柵の生け垣が小松島市全域でみられた。（図19）



図18 櫛渕町にある石積みの囲障



図19 石積みの上に柵の生け垣とした囲障

3) その他の囲障

小松島市全域で、大神子石（緑泥片岩）を用いた築地塀が多くみられた。（図20）



図20 大神子石（緑泥片岩）を用いた築地塀

6. 個別民家の解説

近代和風建築に該当する民家について、いくつか紹介したい。

1) 松島町の民家

松島町にある、明治37年に建てられた豪商の分家住宅（図21）は、創建当時の歴史的景観を伝える貴重な建物で、当時の古地図（図22）を確認すると短冊状の町割りとなっており、このような建物が通りに軒を連ねていたものと考えられる。



図21 【松島町ー豪商の分家住宅】（明治37年創建）



図22 【松島町ー古地図】（西野家本家より提供）

2) 小松島町の民家

小松島町の二条通りにある、大正7年に建てられた町家型の商店（図23）は、創建当時の歴史的景観を伝える貴重な建物で、大正後期に撮影された二条通りの様子（図24）から、町家型の建物が軒を連ねていたことが分かる。



図23 【松島町二条通りー町家型の商店】（大正7年創建）



図24 大正後期の二条通りの様子 出典：ふるさとの想い出写真集 明治大正昭和 小松島（編：泉康弘）

3) 田浦町ーY家住宅

当家は、勝浦川の東側に位置し、水路を挟んだ北側の通りを背に、南向きに主屋が建つ。主屋の北に離れと廁、東に新宅を配置した屋敷構えである。（図25）

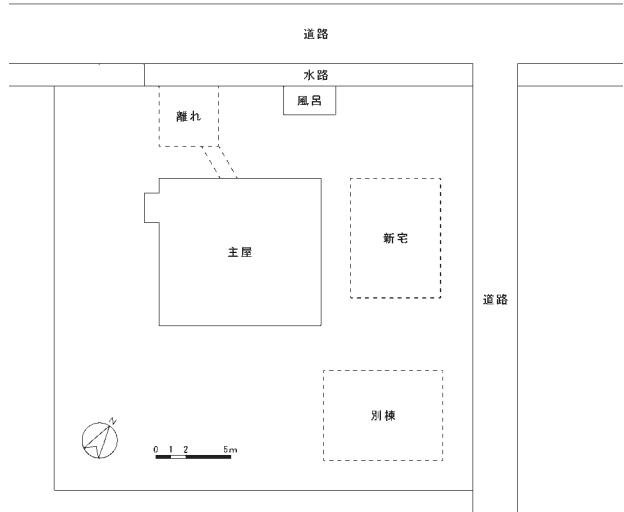


図25 【田浦町ーY家住宅】配置図

家相図によると、屋敷構えは概ね合っており、新宅の位置には、元々オクドがあったことを家人への聞き取りから確認した。（図26）

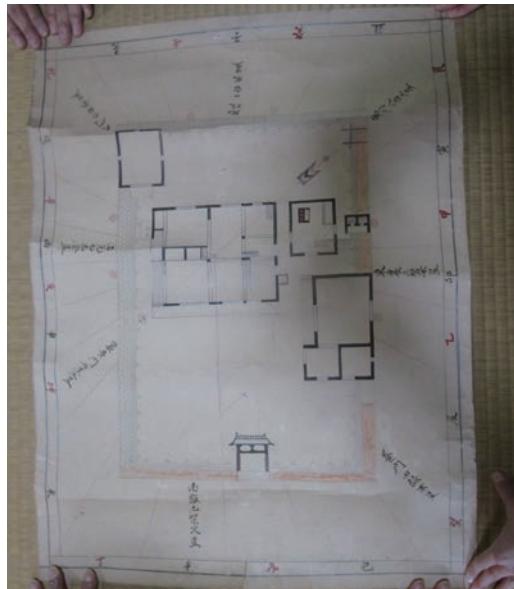


図26 【田浦町一Y家住宅】家相図

主屋は切妻造二階建て、間口6間、奥行き4.5間、南面に右勝手を設ける。（図27、28）北側の通りよりさらに高い位置に地盤面があり、断面をみると、座敷の床高さは地盤面から約80cmの高さにある。（図29）過去に勝浦川が氾濫した記録があることから、水害の対策をしていると考えられる。棟札によると、昭和8年の建築である。屋根は本瓦葺き、四方下屋、外壁は下見板張り、東西妻側の下屋出隅の納まりは比翼入母屋破風のような形態である。（図30）



図27 【田浦町一Y家住宅】主屋

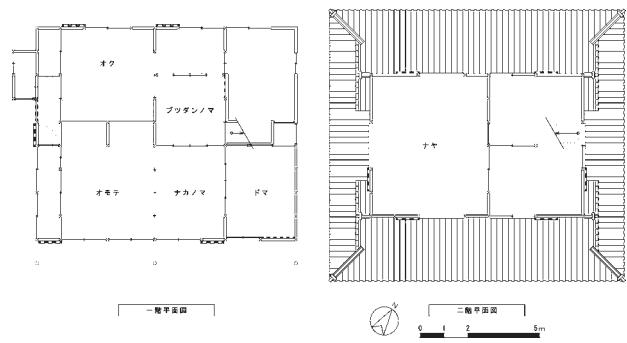


図28 【田浦町一Y家住宅】主屋平面図

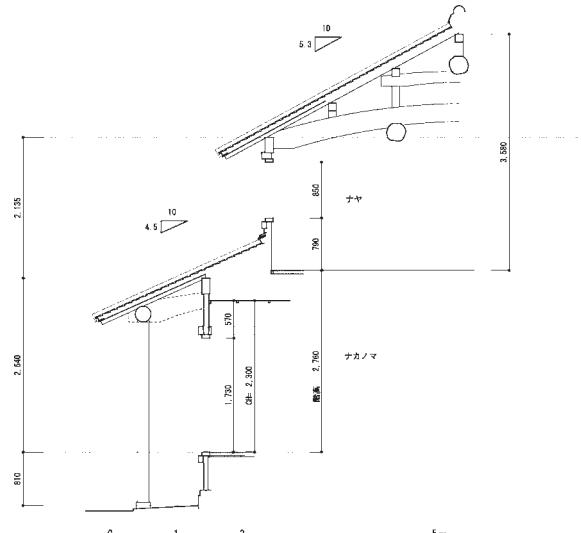


図29 【田浦町一Y家住宅】主屋断面図



図30 【田浦町一Y家住宅】比翼入母屋破風

4) 立江町一K家住宅

当家は、立江寺の南側に位置し、概ね南側の通りに面して、南向きに主屋が建つ。主屋の東に納屋、北に蔵を配置した屋敷構えである。（図31）

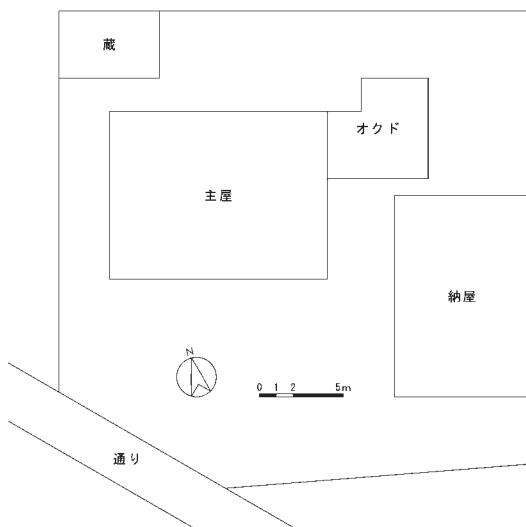


図31 【立江町一K家住宅】配置図

主屋は入母屋造二階建て、間口6.5間、奥行き5間、南面に右勝手を設ける。(図32, 33) 敷地正面は大神子石(緑泥片岩)を用いた築地塀(図34)と周囲は楓の生け垣で囲われている。家人によると昭和初期の建築である。屋根は本瓦葺き、四方下屋、外壁は主に下見板張りと一部漆喰塗り、東西妻側の下屋出隅の納まりは比翼入母屋破風のような形態である。(図35)

納屋は片入母屋二階建て、間口6間、奥行き4間、西面の正面左に出入口を設ける。(図36)



図32 【立江町一K家住宅】主屋

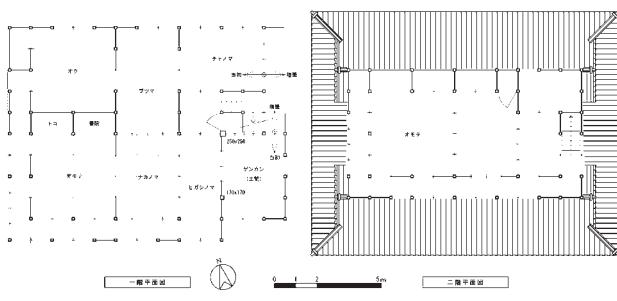


図33 【立江町一K家住宅】主屋平面図



図34 【立江町一K家住宅】大神子石を用いた築地塀



図35 【立江町一K家住宅】比翼入母屋破風

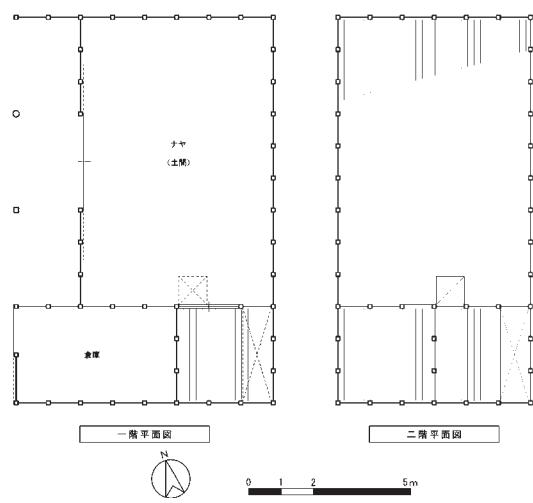


図36 【立江町一K家住宅】納屋平面図

5) 櫛渕町一N家住宅

当家は、櫛渕町の西端に位置し、山沿いの西側の通りに面する築地塀に並行して、南向きに主屋が建つ。主屋の西に離れ、北にみかん蔵、蔵、離れを配置した屋敷構えである。(図37)

主屋は切妻造二階建て、間口7.5間、奥行き4.5間、

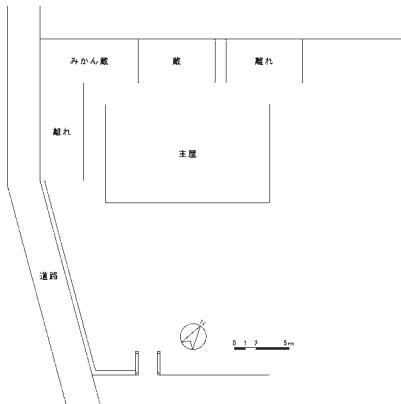


図37 【櫛渕町－N家住宅】配置図

南面に左勝手を設ける。(図38) 敷地周囲は筑地塀や石積みで囲われ、入り口は四足門で構成される。(図39) 家人によると明治後期の建築である。屋根は本瓦葺き、四方下屋、外壁は主に下見板張りと一部漆喰塗り、東西妻側の下屋出隅の納まりは比翼入母屋破風のような形態である。(図40)



図38 【櫛渕町－N家住宅】主屋



図39 【櫛渕町－N家住宅】築地塀と四足門



図40 【櫛渕町－N家住宅】比翼入母屋破風

田浦町、立江町、櫛渕町で調査した民家は、比翼入母屋破風という類似した特徴を持ち、明治後期から昭和初期にかけて流行したもので、同一大工もしくは、その系譜によるものではないかと考えられる。

7. おわりに

小松島市でも少子高齢化や過疎化の影響を受けてか、伝統的な民家は減少傾向にある。調査の結果、茅葺き民家は半数近く消失が確認され、近代和風建築に該当する民家も減少傾向にある。田浦町、立江町、櫛渕町では、類似した意匠的特徴を持つ農家型の民家の様式を確認できた。

地域の歴史的景観を形成していた伝統的な建築物が消失することは、地域固有の景観を失うだけでなく、建築文化の消失にもつながるため、図面等による記録保存や、地域の建築文化の継承のため、保存活用などの対策が求められる。

最後になりましたが、本調査に快くご協力を頂いた住民の皆様はじめ関係各位に深く感謝いたします。

参考文献

- 小松島市史編纂委員会 (1974) 『小松島市史 中巻』
- (社) 徳島県建築士会 阿波のまちなみ研究会 (2004) 『阿波のまちなみマップ』
- (社) 徳島県建築士会 阿波のまちなみ研究会 (2006) 『小松島市茅葺き民家実態調査』
- (社) 徳島県建築士会 阿波のまちなみ研究会 (2008) 『阿波のまちなみ探訪』
- 徳島県教育委員会 (2013) :『徳島県の近代和風建築—徳島県近代和風建築総合調査報告書—』